

第59回 日本サインデザイン特別賞 推薦書

特別賞候補

「忠犬ハチ公銅像」の渋谷シンボルとしての貢献に対して

対象者

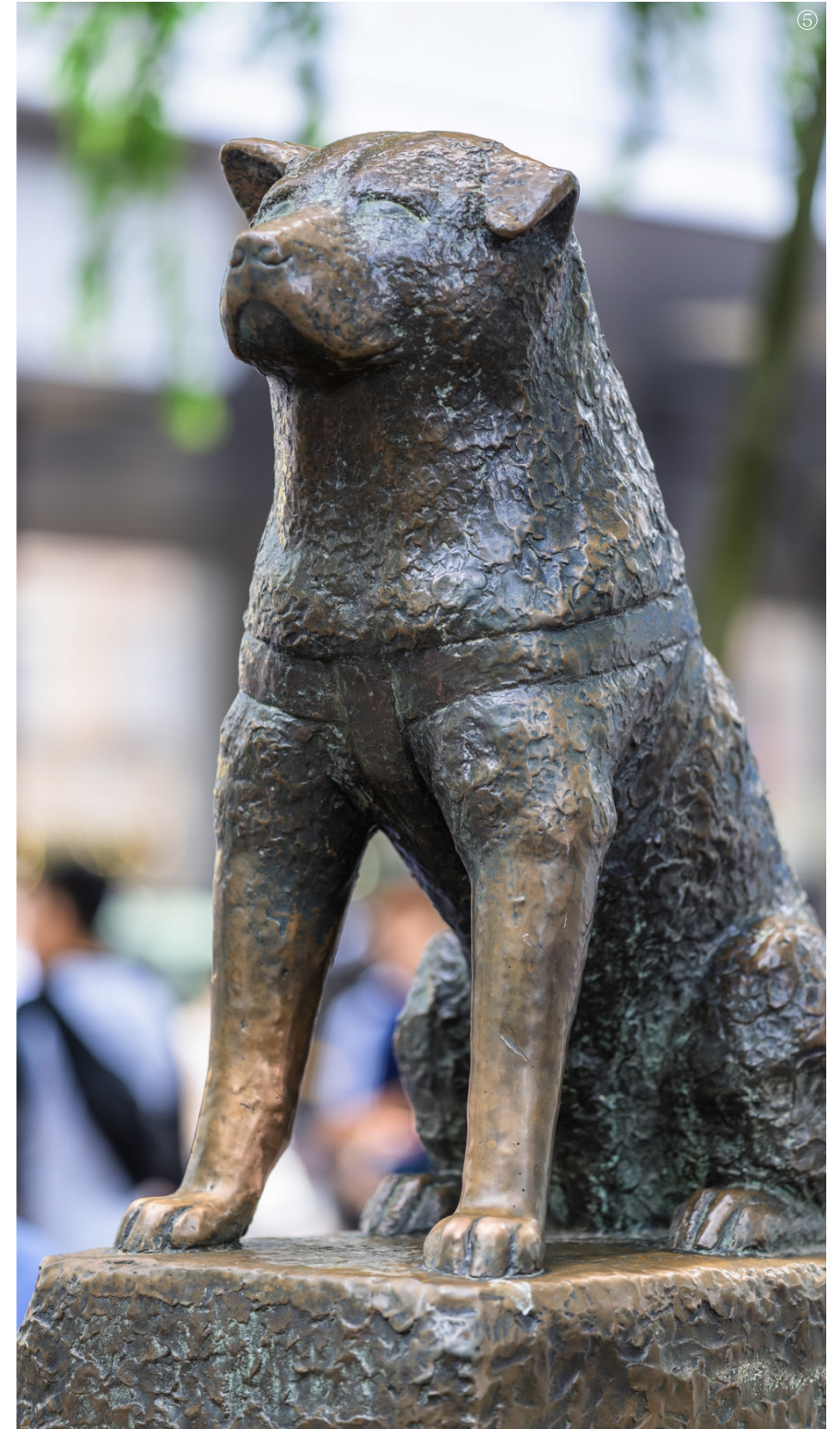
忠犬ハチ公銅像維持会 及び 一般財団法人渋谷区観光協会

概要・推薦理由

「忠犬ハチ公銅像」のモデル「ハチ」が誕生して2023年に100年を迎えました。東京都渋谷区の渋谷駅前に設置されている秋田犬のこの銅像は、渋谷のアイコンとして国内外の多くの人々に親しまれております。今日では、「忠犬ハチ公」という物語の単なる記念碑ではなく、また、待ち合わせの場所といった一元的な存在ではなく、時代と共に移り行く渋谷の都市空間におけるシンボルとして、過去・現在・未来を貫く渋谷文化の支柱として存在しています。奇しくも、「渋谷再開発プロジェクト」の完結を見る2034年は、「忠犬ハチ公銅像」の建立100年を迎えます。まさに、渋谷の100年を見守り続けた存在です。「忠犬ハチ公銅像」の渋谷シンボルとしての貢献と、これを保存・維持管理する忠犬ハチ公銅像維持会 及び 一般財団法人渋谷区観光協会の活動と功績を特別賞に推薦いたします。

推薦者

渡辺光恵 / 関東地区



		渋谷開発史		忠犬ハチ公銅像
1920年代	渋谷とハチ公のはじまり	1923年 関東大震災。 震災後、渋谷は東京南西部の交通要所として重要性を増す。 1927年 東京横浜電鉄（現在の東急電鉄）東横線の渋谷駅が高架駅として開業。 郊外と都心を結ぶ拠点へ。駅周辺はまだ雑然とした郊外風景。	1923年 1924年 1925年	秋田犬・ハチが生誕。 秋田犬・ハチが上野英三郎博士に飼われ始める。 上野博士の死去後も、ハチは毎日渋谷駅で帰りを待ち、「駅に通う犬」として話題になる。
1930年代	都市の形、忠犬の像	1934年 東横百貨店（現：東急東横店）開業。 ターミナルデパートの先駆け。 1938年 東京高速鉄道（現在の東京メトロ＝開業時は東急傘下）開業。 電車・バス、交通の起点としての駅前広場の整備と都心への新規路線の乗り入れが進む。	1932年 1934年 1935年	ハチの話が東京朝日新聞で「いとしや老犬物語」として報じられ話題に。 初代ハチ公像建立（彫刻家：安藤照あんどうてる。除幕式にはハチ本人が参加。 ハチ永眠。渋谷駅周辺（稲荷橋付近）で最期を迎える。
1940年代	戦火と喪失	1945年 第二次世界大戦で渋谷駅周辺が山手空襲の被害。 1945年 戦争終結。バラックの「渋谷第一マーケット」が開設。	1945年 1948年	戦時中の金属供出により初代ハチ公像が撤去・溶解。 市民の間で再建を望む声が高まる。 二代目ハチ公像再建（彫刻家：安藤士あんどうたかし／父は安藤照氏）

■1934年 渋谷駅のハチ公

秋田犬・ハチは上野英三郎博士と共に渋谷駅まで通い、駅前で博士の帰りを待つのが日課であった。1925年に博士が急逝した後も、ハチはその習慣を変えず、ほぼ毎日のように渋谷駅で博士の帰りを待った。



■1923年 関東大震災直前の渋谷駅

ハチの誕生年の渋谷駅。駅前の路面（現在のハチ公前広場のあたり）をトロリー式の市電が走っていた。



■1932年 「いとしや老犬物語」

渋谷駅前をうろつくハチに対し、暴力や顔に落書きをする者もいたが、斉藤弘吉氏が寄稿した朝日新聞の記事を機に、ハチは「時の犬」として深い愛情をもって見守られる存在となった。

■1934年 初代ハチ公像建立

建立直後の初代ハチ公銅像とハチ公。夏休みに兵庫から東京・渋谷に足を運び、撮影した子どもたちの記念写真。



■1948年 二代目ハチ公像再建

戦時中 1945年の金属供出で失われたハチ公像であるが、多くの市民の寄付と尽力により渋谷駅前に二代目ハチ公像が再建された。除幕式は、関係者や市民が多数集り盛大に行われた。戦後の混乱と困難の中で復元されたハチ公像は、戦後復興の象徴として多くの人の心に再生の希望を称えた。

■1948年 ヘレン・ケラーさん

彼女が来日した際、渋谷駅前に再建されたハチ公像に手で触れたことは広く知られている。視覚と聴覚に障がいを持ちながらも世界的な教育家・社会福祉活動家として活躍した彼女が、ハチ公の忠誠心に深い共感を示したこの場面は、ハチ公の姿と忠誠心が、国境を越えて人々の心に届いた証とされている。



			渋谷開発史	忠犬ハチ公銅像
1950年代	復興と都市の輪郭	1956年 1950年	東急文化会館／渋谷パンテオン 開業。 戦後復興事業が加速。仮設建築から本格的な商業施設へ移行。 山手線と郊外電車がつながる節点に。	ハチ公像は再び駅前広場の中央に位置。 戦後の混乱期にも、“希望の象徴”として親しまれる。
1960年代	五輪と副都心化	1964年 1967年 1968年	東京オリンピック 開催。 オリンピックに向けた大規模インフラ整備。首都高速3号渋谷線、国道246号の改修。 東急百貨店本店ビル 開業。 西武渋谷店 開業 上野・浅草や銀座に対し、「西の果ての田舎」だった渋谷は、東京の副都心として位置づけられる。	ハチ公像前は「人が集う渋谷の顔」として観光名所に。 修学旅行、写真撮影の定番スポットとなる。
1970年代	カルチャー発酵の時代	1973年 1979年	渋谷PARCO開業。 渋谷系音楽や雑誌で象徴的に登場し、センター街、道玄坂が商業ゾーンが若者文化の拠点へ。 ファッションコミュニティ109 (現SHIBUYA 109) 開業。	若者文化が拡大する中でハチ公像も ファッション・サブカル文脈で言及されるように。
1980年代	商業の頂点	1984年 1989年	地下鉄半蔵門線 開業 ファッションビル、カフェ、音楽シーンなどが連動し“渋谷カジ”文化の中心地へ。 駅ビルの高層化計画が進行。	駅前広場の整備計画により、ハチ公像移設 像は駅の改札口を向き、生前ハチが主人を待ち続けた姿勢を再現した形へ。 ハチ公前広場は“待ち合わせの聖地”として文化的アイコンに。
1990年代	再編の予兆		バブル崩壊後も再開発議論が継続。 地下鉄副都心線の計画進行、都市機能再構築の構想が始まる。 渋谷駅東口・南口の用地取得や再整備案が浮上。	ハチ公前でのパフォーマンス・イベントが活発化。 世界的な知名度が拡大。インバウンド観光客も訪れ始める。



■1952年 復興期のハチ公広場

戦後復興の只中でも、ハチ公広場は市民の憩いの場として親しまれていた。広場前の道路は、現在では世界的に知られる「スクランブル交差点」へと変貌を遂げた。

■1955年 進駐軍とハチ公像

オーストラリア進駐軍は戦後日本に駐留した連合国軍の一部。彼らが記録したハチ公像は、戦後日本の貴重な資料であり、国際的視点から日本文化に関心を寄せた証もいえる。ハチ公像が市民の心の拠り所として再建された姿は、復興と平和を願う日本人精神を世界へ伝えている。



■1960年代 五輪後の渋谷

1967年東急百貨店本店ビル(地上8階・地下3階)の開業により、渋谷駅周辺は大きく再開発され、商業拠点として都市景観が一変した。ハチ公広場も整備が進み、渋谷のランドマークとしての機能を強めていった。人々の待ち合わせ場所として親しまれていたハチ公像は、この再整備によってより多くの人々の目に触れる場となり、都市と記憶の象徴としての役割を一層深めていった。

■1970-80年代 渋谷カルチャーの発酵

渋谷の商業都市化は過熱し、やがて若者文化の中心地として発展した。映画館や劇場、音楽喫茶、ファッションビルが立ち並び、渋谷カジやクラブが隆盛を極め多様なカルチャーが交錯する、創造と刺激の場となった。ハチ公広場は、若者文化と情報が交差する熱気に包まれる中、ハチ公像は、都市の空気を吸い込みながら、街と人々の営みを見つめていた。



第59回 日本サインデザイン特別賞 推薦書

特別賞候補

「忠犬ハチ公銅像」の渋谷シンボルとしての貢献に対して

		渋谷開発史		忠犬ハチ公銅像
2000年代	地下と上空の再設計	2008年	2009年	ハチ公像の移動が検討されるも、「動かさないで」という市民の声が尊重された。 アメリカ合衆国の映画『HACHI 約束の犬』(原題: Hachi: A Dog's Tale) 公開。
2010年代	垂直都市への転換	2012年 2013年 2013年 2018年 2018年		ハチ公像とスクランブル交差点がSNS映えスポットに。
2020年代	多層都市とデジタル共存	2019年 2020年 2025年	2020年 2023年 2023年 2024年	SHIBU HACHI BOX (シブハチボックス) 開業 渋谷駅ハチ公前広場の観光案内所。 多言語案内、観光インフォメーション機能が強化される。 ハチ公生誕 100周年。 「HACHI100プロジェクト」展開 ハチ公像建立 90周年。

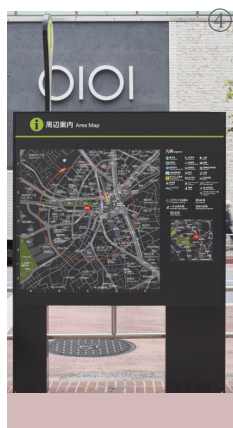
■2009年 映画『HACHI 約束の犬』

アメリカ合衆国制作の映画。プロデューサーのヴィッキー・シゲクニ・ウォンは渋谷駅前のハチ公像に興味を示し、1987年の日本映画『ハチ公物語』を知るにいたり感銘を受けた。映画は日本の物語を現代アメリカに置き換えながら、亡き主人を駅で待ち続ける犬の姿を描き、ハチ公の精神は国境を越え、忠義と愛情の象徴として世界中の心に深く刻まれることとなった。



■2013年 SHIBUYA SIGN -渋谷駅・街区サイン

渋谷区と渋谷駅事業各社、商業事業各社により、新しいサインガイドラインを定め SHIBUYA SIGNが誕生した。鉄道4社、9路線が共有する渋谷駅構内の案内誘導サインを、利用者の利便性を最優先に共通化を図った。さらに、街の回遊性の向上を目的に、街区案内誘導サインを展開し、連続的な都市開発と並走して、マップや誘導サインの情報を更新し続けている。



■2023年 「HACHI100プロジェクト」

忠犬ハチ公の生誕 100年を記念して複数のアートイベント、まちづくりプロジェクトが展開。ハチ公の精神を未来へつなぐプロジェクトとして、都市と人を結ぶ文化発信の場を創出した。



JR山手線、東急電鉄の車両に、「HACHI100プロジェクト」ヘッドマークを掲出し、乗客に向けて祝賀ムードを盛り上げた。

「ハチ公生誕100年事業実行委員会」
☐ 秋田県大館市 ☐ 一般財団法人渋谷区観光協会
☐ 東京都渋谷区 ☐ 忠犬ハチ公銅像及び秋田犬群像維持会(大館市)
☐ 一般社団法人秋田犬ツーリズム ☐ 忠犬ハチ公銅像維持会(渋谷区)

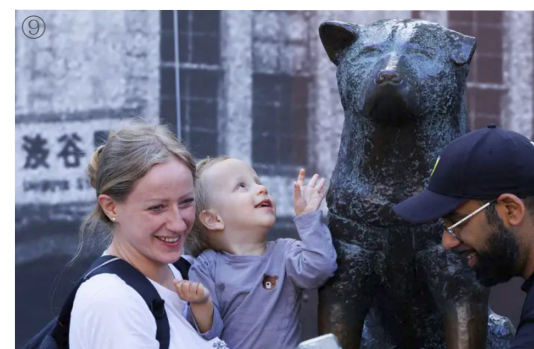


■2023年 「ハチ公の部屋」

西野達氏のアート作品。実際のハチ公像の台座の上に、ハチ公が自宅のベッドルームでくつろいでいるかのような空間を設置し、演出したインスタレーション。西野達氏のコンセプトは、「長年にわたり渋谷のシンボルとして立ち続けるハチ公像に対し、『お疲れ様です』という感謝の気持ちを込め、安らぎの空間を提供することを目的とした」というもの。1日限定で公開され、多くの通行人や観光客が足を止め、写真を撮るなどして話題となった。

■2025年 海外観光客の人気スポット

ハチ公広場の再整備工事のために設置された仮囲いに、1959年の渋谷駅前風景を再現モノクロ写真が掲出された。ハチ公像とともに海外観光客にも人気を集め、記念撮影を楽しむ注目の撮影スポットとなり、SNSを賑わしている。



第59回 日本サインデザイン特別賞 推薦書

特別賞候補

「忠犬ハチ公銅像」の渋谷シンボルとしての貢献に対して

2030年代 未来へ 「忠犬ハチ公銅像」建立100年

■2030年 東西を結ぶ自由通路の完成

自由通路は、ハチ公改札前に最大幅22メートル、南改札前に最大幅23メートルの2本が整備され、東側の宮益坂方面と西側の道玄坂方面を結ぶ。これにより、渋谷駅周辺の混雑緩和や歩行者の利便性向上が期待されている。

■2031年 駅直結商業施設の完成

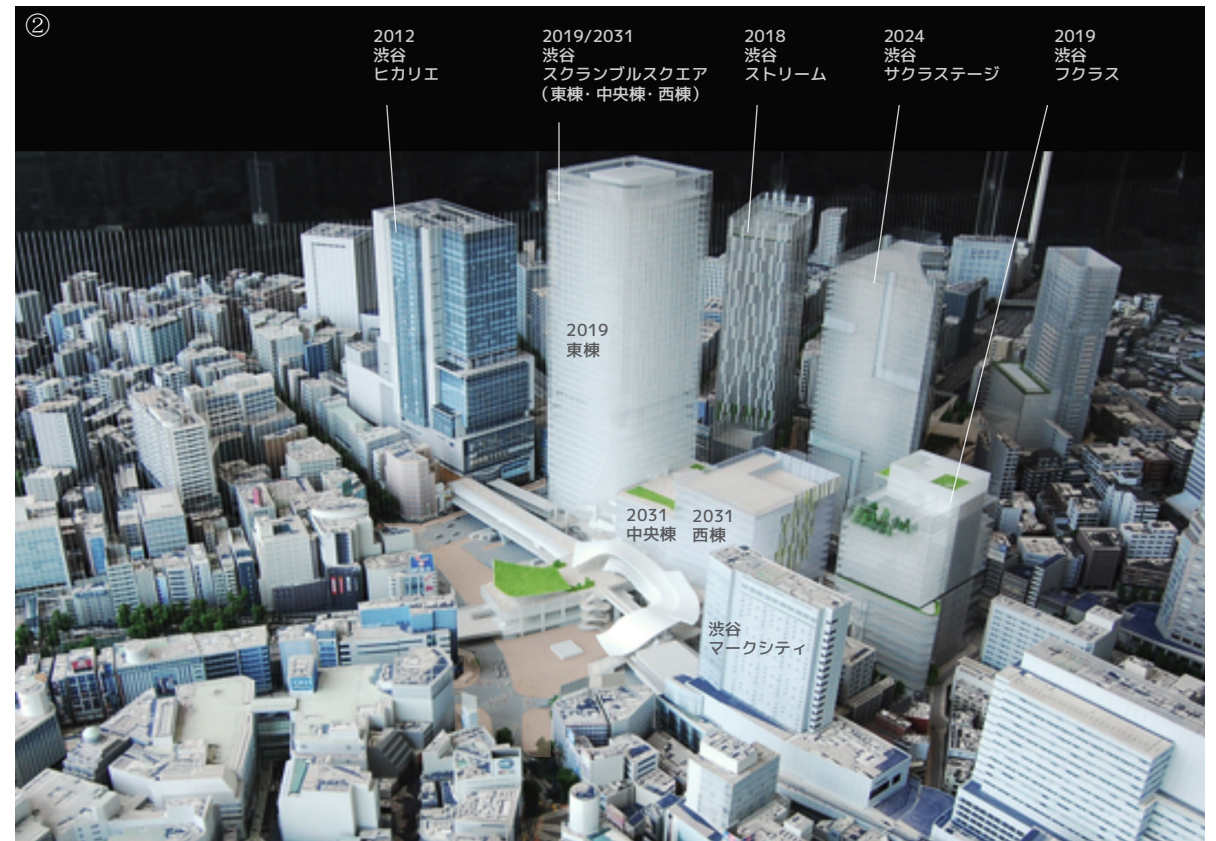
渋谷スクランブルスクエア商業フロアは、東棟・中央棟・西棟と併せて首都圏最大級の面積となる。これにより、駅に直結した商業施設の回遊性が向上し、多様な過ごし方を提供する施設となる。

■2034年 マルチレイヤー都市とハチ公広場の完成

「渋谷再開発プロジェクト」の完結とともに、渋谷駅および渋谷の東西南北を地上および空中回廊で結ぶマルチレイヤーな歩行者ネットワークが誕生する。ハチ公広場は、渋谷の街の起点として、ますます、その存在感を増すこととなる。

■2034年 「忠犬ハチ公銅像」建立100年

我々が新たな渋谷を体験するとき、「忠犬ハチ公銅像」は建立100年を迎える。渋谷の100年を見つめ続けたハチ公は、これからの100年も——変わりゆく都市の中で、変わらぬ絆と記憶をつなぐ象徴として、未来へ向かう人々を渋谷の街で静かに見守り続ける。この街に生きるすべての人の、はじまりと再会の場所として。



「忠犬ハチ公銅像維持会」について

1971年、渋谷駅前の忠犬ハチ公像を恒久的かつ計画的に保存・維持管理するため、「忠犬ハチ公銅像維持会」(以下、維持会)が発足した。ハチ公像建立当初は、国鉄(現JR)渋谷駅および東急電鉄が主に実務を担っていたが、より明確な統括機関として維持会を設けた。これにより、それまで分散していた保存・維持管理、祭事の主催・修繕・清掃などを一貫した形で担うことが可能になった。

□渋谷再開発における維持会のはたらき

2014年以降の渋谷駅西口広場再整備計画において、東急やJRが提示した『ハチ公像の中心化移動』案に対し、忠犬ハチ公銅像維持会は『像は位置と距離感において人々の記憶に根ざしており、安易に動かすべきではない』と公式意見書を提出した。結果、像の移動は最小限にとどめられ、設計図にも『現位置尊重』が明記された。この意見書尊重の背景には、維持会が長年にわたり市民と共に像を守り続けた実績と、渋谷区・事業者との信頼関係に支えられたものでり、また、行政側の地域の声に基づく『合意形成の重視』も一因となった。

□会員数

73の企業と団体

□主な会員

JR渋谷駅
東急株式会社
渋谷区
地元商店街・町会
(渋谷駅前共栄会／渋谷中央街商店街振興組合／他)
秋田県大館市(ハチ公ゆかりの地)
渋谷区内の学校関係者や市民有志
他、多層的な支援体制を構築

□主な活動

銅像の保存・保守／清掃活動
慰霊祭の開催、啓発活動
企業・行政からの活用相談／メディア対応
秋田県大館市、三重県津市、海外都市等との連携

「一般財団法人渋谷区観光協会」について

2012年、渋谷区が支援主体として、一般財団法人渋谷区観光協会が設立した。観光と文化・まちづくりをつなぐ中核組織。渋谷の観光資源を広く発信し、国内外からの誘客を図る役割を担っている。

忠犬ハチ公像については、渋谷を代表するランドマークとして、広報活動の中心的存在であり、パンフレットや公式サイトを通じて国際発信を行っている。インバウンド観光客の間では『まず撮影したい場所』としてハチ公像がランキングされるなど、集客資源としての価値を高めている。ハチ公像に隣接した観光案内所「SHIBU HACHI BOX」も、協会が運営しており、外国人観光客への多言語対応の情報提供や案内を担っている。2023年、ハチ公生誕100年を記念した「HACHI100プロジェクト」の実行委員。記念展示やグッズ展開、デジタル施策などを通じ、観光と文化の融合を図った。観光協会は今後もハチ公像を軸とした地域ブランドの発信拠点としての役割を担い続ける。

文化継承支援として慰霊祭・記念事業の周知や後援も行う。

出典リスト

- 01頁 ① 中日新聞社web/2017年6月26日 /©山本勇/安藤勇/撮影者:山本勇さん/撮影日:1934年
/公開者:白根記念渋谷区郷土博物館・文学館
② 毎日新聞web /掲載日:2025年4月15日 /MAINICHI PHOTOGRAPHY
/撮影日:2025年4月14日
③ ハチ公生誕100年事業実行委員会「HACHI100プロジェクト」
④ 渋谷文化プロジェクト-運営/東急株式会社都市創造本部/info@shibuyabunka.com
⑤ PIXTA
- 02頁 ① ガジェット通信/掲載日:2009年7月9日 /撮影日:1934年の4月15日
② 渋谷区立図書館web /提供者:白根記念渋谷区郷土博物館・文学館
③ 東京朝日新聞(現:朝日新聞)/掲載日:1932年10月4日
④ 朝日新聞web/2023年9月16日 /提供者:白根記念渋谷区郷土博物館・文学館
/撮影者:神奈川県鎌倉市の大島健一さん
⑤ ジャパンアーカイブズ1850-2100 /撮影日:1948年
⑥ 毎日新聞web/2025年4月15日 /MAINICHI PHOTOGRAPHY /撮影日:1948年9月5日
⑦ ※ハブリックドメイン/wikimedia commons/1952 Shibuya.jpg
- 03頁 ① 昭和館デジタルアーカイブ /撮影日:1955年1月/撮影者:フィリップ・オリバー・ホブソン
/提供者:オーストラリア戦争記念館(Australian War Memorial)
② KYODO NEWS IMAGELINK/国鉄(後にJR)渋谷駅と東横百貨店(後に東急百貨店)
/撮影日:1955年5月30日/提供元: 共同
③ ハルコレポート/1977年1月号/ネオンに彩られた渋谷ハルコ
④ 東急100年史/https://www.tokyu.co.jp/history/chapter04
- 04頁 ① ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント「HACHI 約束の犬」DVD
② ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント「HACHI 約束の犬」DVD
③ Takeuchi Design
④ Takeuchi Design
⑤ ハチ公生誕100年事業実行委員会「HACHI100プロジェクト」
⑥ Hatena Blog 川崎鶴見鉄道線 2023年12月10日
⑦ 鉄道ニュース rail.jp 2023年9月24日
⑧ 西野達「ハチ公の部屋」2023年11月12日 Photo by 88PROJECTS/Jiroh Fujimura
©Tatzu Nishi Courtesy of 88PROJECTS
⑨ 毎日新聞web /掲載日:2025年4月15日 /MAINICHI PHOTOGRAPHY
/撮影日:2025年4月14日
- 05頁 ① 「渋谷まちづくり最新情報発表会」での模型 /撮影日:2025年6月03日
/渋谷スクランブルホール /提供者:東急
② 渋谷文化プロジェクト-運営 /東急株式会社都市創造本部/info@shibuyabunka.com